

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03653

研究課題名(和文) 大学における合理的配慮と支援モデルの最適化に基づくニューロダイバーシティの実現

研究課題名(英文) Realization of Neuro-Diversity by Optimisation of Reasonable Accommodation and Support Model in University

研究代表者

竹田 一則 (TAKEDA, Kazunori)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号：90261768

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果として、システマティックレビューの実施や現地視察を通じて、ニューロダイバーシティ(neurodiversity：以下、ND)の概念整理を進めることができた。そして、学生生活上の困難感を評定する「困りごと質問紙」を作成し、妥当性の評価を行った。また、ND学生、特に発達障害の診断のある学生の合理的配慮に関する調査を行い、現状を明らかにした。さらに、ND学生の就職・キャリアに関する状況を整理するとともに、卒後の社会参加についての問題等を明らかにした。加えて、ND学生支援における学生サポーター育成に関する具体的な取組と調査を行い、関係要因を明らかにするとともに、研修体制を整備した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の遂行により、国内外の知見をもとに、日本の高等教育機関における発達障害を「脳の多様性(neurodiversity：ND)」と捉え直し、発達障害学生への合理的配慮の調整やND学生への支援について検討することができた。また、ND学生にアセスメントを実施することにより、根拠のある支援を提供することが可能となり、日本の大学における支援モデルを構築することができた。今後は、ND学生のみならず、ND学生に関わる教員・職員・専門職員へのFD/SD等を通じてインクルーシブキャンパスの実現を進めることが課題である。

研究成果の概要(英文)：As a result of this research, we were able to advance the concept of neurodiversity(ND) by conducting a systematic review of studies and site visits. We then developed a "Support Needs Inventory" to assess the difficulties of university life and evaluated its validity. We also conducted a survey on reasonable accommodations for ND students, especially those with a diagnosis of developmental disability, to clarify the current situation and issues. Furthermore, we organized the status of employment and careers of ND students and clarified issues related to their participation in society after graduation. In addition, we investigated specific efforts and surveys for student supporter training to reveal related factors and established a training system.

研究分野：障害学生支援

キーワード：ニューロダイバーシティ 発達障害 高等教育 合理的配慮 就労・キャリア支援 アセスメント

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2016年4月より障害者差別解消法が施行されたものの、日本の高等教育機関における発達障害学生への合理的配慮や支援においては課題が山積している。一方、諸外国の高等教育機関では発達障害を「脳の多様性 (neurodiversity : ND)」と捉え直し、ND学生の特性に関するアセスメントに基づいた根拠のある支援の提供が進められている。本研究により、従来の障害者への権利保障という考え方に加えて、多様なND学生が持つ才能を引き出して社会で活かせるように伸ばしていく環境の実現と支援のあり方をエビデンスに基づいて日本の現状に最適化させることを目指す。

2. 研究の目的

本研究ではNDの概念を踏まえ、発達障害のある学生をND学生と捉え直し、高等教育における多様な少数派にある学生が才能を発揮しやすい環境実現のための合理的配慮および学生支援のモデル構築ならびにND学生が卒業した後の社会参加における実態把握を目的とする。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、研究 から にわたる6つの研究班を構成し進めた。各研究班の連携および研究全体への統合を促進するため、本研究事業に関する研究分担者・研究協力者間で研究ミーティングを定期的に行った。

【研究 】NDの概念と展開について、neurodiversityをキーワードとした文献調査を行った。

【研究 】発達障害に関連する学生生活上の困難感を評価する「困りごと質問紙」を作成し、学業成績や学年等との関連を明らかにした。困りごと(支援ニーズ)に加えて強みを評価する質問紙を作成した。ND学生への包括的な支援に有効な支援情報データベースの効果検証を行った。

【研究 】大学生の読み書きのアセスメントに関する文献調査を行った。また、修学上の困難さを有する大学生を対象とした事例研究とともに、修学上の困難さを把握するためのスクリーニングツールとしての「困りごと質問紙」の妥当性ならびに発達障害特性・認知能力との関連について研究を行った。

【研究 】ND学生支援における学生サポーターに関する調査を行った。また、大学生生活に困難を抱える大学生への関わり方を学ぶ研修のための仮想事例動画の制作を進め、仮想事例の内容の妥当性に関する研究を行った。

【研究 】ND学生自身による高等教育機関において受けてきた支援や合理的配慮に関する調査を行った。

【研究 】日本におけるND学生の就職・キャリアに関する状況について整理するとともに、米国における先行例の文献研究を行った。

4. 研究成果

【研究 】

・2015 - 2020年8月までに発表されたNDの概念を扱った英語査読付き論文を主要DBで検索、システマティックレビューを実施した。結果、NDとは、欠陥(Deficit)をどうとらえるかの発想に立つものであり、障害の社会モデルや医学モデルとも異なること、また障害当事者のポジティブなアイデンティティの構築に役立つことが分かった。また、NDはすべての障害種別を網羅した用語・概念ではないが、高等教育機関で支援を必要とする学生の圧倒的多数を占めるNDD : 神経発達症群/神経発達障害群を表すことが分かった。

・日本の実態現状を踏まえ、米国における先行例との比較を行った。具体的には、米国オハイオ州立大学より視察団を招聘し、大学における障害学生支援の意見交換を行った。また、先進大学である米国シラキュース大学およびオハイオ州立大学を視察し、米国におけるNDの概念、高等教育における支援体制の調査を行った。加えて、日本の大学におけるND学生への支援モデルについて国際会議で発表を行い、情報交換を進めた。

【研究 】

・NDの概念に基づいて、発達障害に関連する対人関係、注意・集中、読み書き、生活リズム、感覚過敏などの学生生活上の困難感を評定する「困りごと質問紙」を作成した。また、全学的・縦断的な調査を行い、学業成績や学年との関連などを分析した。その結果について、国際学会であるAssociation on Higher Education And Disability、日本心理学会、LD学会にて発表した。また、「困りごと質問紙」に基づいて、各学生の特性を個別フィードバックするシステムの試作品を開発した。

・ND学生の困り感(支援ニーズ)に加えて、学生の得意な能力(強み)を評価するための質問紙を作成し、1500名程度の大学生を対象に調査を行った。

・ND学生への包括的な支援に有効な支援情報データベースについて効果検証を行い、日本特殊教育学会にて発表した。また、学生への直接配信のみならず、支援情報データベースを教職員研修(FD/SD等)に活用する取組について全国高等教育障害学生支援協議会にて発表した。

【研究】

海外の試験実施機関における根拠資料と判断プロセスの調査を行い、調査結果を取りまとめた。また、大学生の認知特性評価（アセスメント）に関する研究について、国際会議発表を行うとともに、アセスメントに関する自主企画シンポジウムを行った。あわせて、修学上の困難さを有する大学生を対象とした認知特性評価（アセスメント）に基づく事例研究ならびに大学生を対象とした「困りごと質問紙」の妥当性評価に関する研究の論文が学術雑誌に掲載された。

【研究】

・一般学生をサポート学生として育成することの可能性や支援者として必要となる要因を明らかにするために学生集団内部の援助関係のあり方について調査をした。その結果、障害のある学生との関わりから、サポート学生がやりがいや自身の成長を実感していることを明らかにし、これらの結果について学会発表を行った。また、発達障害学生支援における学生サポーターの育成と支援実践に関する学会シンポジウムを行った。

・ND 学生支援における学生サポーターに関する全国調査の計画を立案した。また、学生サポーターの研究効果を評価するための研究計画を立案した。加えて、大学教員および学生における自閉スペクトラム症学生への支援に対する意識調査の研究論文が採択された。

・ND 学生支援における学生サポーターに関して、全国の国公私立大学の障害学生支援を担う教職員を対象として調査を行った結果、大学設置主体によって、ピアサポーター制度の有無に偏りがあること、発達障害学生に対しては、ノートテイク支援を行っている大学が多いことが明らかになった。加えて、学生サポーターに求める支援として、社会的コミュニケーションの支援や居場所支援へのニーズが高いことが明らかになり、これらの結果について学会発表を行った。

・発達障害学生を想定したテキスト形式の仮想事例に基づき、その内容を仮想事例動画として制作した過程について学会発表を行った。加えて、学生生活に困難を抱える大学生への関わり方を学ぶ研修を行うために、発達障害学生を想定したテキスト形式の仮想事例を用いて、発達障害者と関わり経験のある大学生等に対して Web アンケート調査を行った。結果、制作した仮想事例は発達障害者の関わり経験のある大学生にとっては分かりやすい内容であり、一定程度の内容的妥当性が示された。これらの結果についても学会発表を行った。

【研究】

・ND の概念の中で、特に発達障害の診断のある学生が高等教育機関において受けてきた支援や合理的配慮に関する学生本人による調査研究を行った。その結果、発達障害以外の障害学生では「申し出た通りの配慮が提供された」人数が多く、一方で、発達障害学生では「申し出たが、配慮は提供されなかった」人数が多いことが示された。また、特に 2020 年度の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、発達障害学生において、発達障害以外の障害学生と比べて「オンライン授業における合理的配慮が対面授業と比べて適切に提供された」とは感じていない傾向が示された。ND 学生自身による高等教育期間で受けた支援内容の評価によって、発達障害学生における合理的配慮の提供プロセスの再検討やオンライン授業を実施する教員側への支援の必要性が今後の課題として挙げられた。

【研究】

・ND 学生の就職・キャリア支援に関する問題構成を明らかにするために、就労支援機関等と連携して研究会を行った。また、発達障害学生における卒後の社会参加について、日本発達障害学会及び全国高等教育障害学生支援協議会にて研究発表を行った。

・日本における ND 学生の就職・キャリアに関する状況について整理するとともに、米国における ND 学生を含む障害学生の採用プログラムである Workforce Recruitment Program (WRP) に関する文献研究を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 末吉彩香・柘植雅義	4. 巻 45 (1)
2. 論文標題 自閉スペクトラム症学生に対する就業体験における振り返りシートの作成と活用 - 学生の自己理解・自己効力の変化に着目した振り返り面談の実践 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 障害科学研究	6. 最初と最後の頁 269-284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20847/adsj.45.1_269	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中野泰伺・高橋知音・岡崎慎治・中島範子・脇貴典・末吉彩香・松田奈々恵・竹田一則・佐々木銀河	4. 巻 45 (1)
2. 論文標題 大学生を対象とした「困りごと質問紙」の妥当性ならびに発達障害特性・認知能力との関連の検証	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 障害科学研究	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20847/adsj.45.1_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nakano, Y., Nakashima, N., Waki, T., Sueyoshi, A., Matsuta, N., Okazaki, S., Takeda, K., Sasaki, G.	4. 巻 4
2. 論文標題 Relationship between working memory and study support of students at higher education institution	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Global Conference Series: Social Sciences Education and Humanities	6. 最初と最後の頁 302-305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32698/GCS-04294	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 末吉彩香・佐々木銀河・竹田一則	4. 巻 2 (1)
2. 論文標題 発達障害学生における小集団エンパワメントグループによる修学上の困り感への支援 発達障害のある学生と障害のない学生によるグループ活動の試行的取り組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高等教育と障害	6. 最初と最後の頁 34-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34322/jhed.2.05	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藁科遼・野呂文行・佐々木銀河	4. 巻 45
2. 論文標題 企業が障害学生向けインターンシップを実施するプロセス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 障害科学研究	6. 最初と最後の頁 91-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20847/adsj.45.1_91	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木真純・佐々木銀河・中島範子・岡崎慎治・竹田一則	4. 巻 58(3)
2. 論文標題 ADHDやASDのある大学生の認知特性とこれに関連する方略評価についての検討—DN-CAS認知評価システムの年齢外適用を通して—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 165-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6033/tokkyou.58.165	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋知音	4. 巻 38(1)
2. 論文標題 大学生の読み書き困難の評価と支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニケーション障害学	6. 最初と最後の頁 52-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横田晋務・田島晶子・中野光里・田中真理	4. 巻 7
2. 論文標題 オンライン授業は障害のある学生に対する有効な学習形態となるのか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 基幹教育紀要	6. 最初と最後の頁 67-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/4363101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木真純・佐々木銀河・真名瀬陽平・五味洋一・中島範子・岡崎慎治・竹田一則	4. 巻 28
2. 論文標題 ノートを取ることが困難な大学生に対するノートの取り方の方略変容を目指した事例的検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 LD研究	6. 最初と最後の頁 133-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32198/jald.28.1_133	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真名瀬陽平・佐々木銀河・五味洋一・竹田一則	4. 巻 1(1)
2. 論文標題 障害者差別解消法施行に伴う日本の国立大学におけるディプロマ・ポリシーの課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高等教育と障害	6. 最初と最後の頁 74-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34322/jhed.1.74	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末富真弓・五味洋一・佐々木銀河・中島範子・末吉彩香・杉江征・名川勝・竹田一則	4. 巻 43
2. 論文標題 発達障害学生における就労準備性を高める支援についての検討：「就職活動準備講座」の分析を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 障害科学研究	6. 最初と最後の頁 163-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20847/adsj.43.1_163	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木銀河・田原敬・五味洋一・青木真純・宮内久絵・岡崎慎治・野呂文行・竹田一則	4. 巻 56(3)
2. 論文標題 オーストラリアの大学における固有の必要条件の調査－障害学生に対する合理的配慮の提供プロセスの明確化に向けて－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 157-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6033/tokkyou.56.157	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計61件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 高橋知音
2. 発表標題 大学生の読み書き困難の評価と支援
3. 学会等名 第46回日本コミュニケーション障害学会学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹田一則・岡崎慎治・佐々木銀河・藤井敬明・笹谷幸司・田中裕一
2. 発表標題 特別支援教育からその先へ 発達障害のある生徒の高大連携と情報共有
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会研究委員会企画シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 末吉彩香・柘植雅義
2. 発表標題 自閉スペクトラム症傾向のある学生の就業体験における振り返り面談の実践 - 自己効力の変化を記録する振り返りシートの作成と面談での活用 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中野泰伺・末富真弓・竹田一則・佐々木銀河
2. 発表標題 読み困難のある大学院生へのコーチングー障害学生支援部署とキャリア支援部署との連携を通してー
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横田晋務・田中真理・金城志麻・山本幹雄・大野愛哉・脇貴典
2. 発表標題 発達障害学生支援における学生サポーターによる支援実践
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤由紀子・岡野由実・杉中拓央・原島恒夫・竹田一則
2. 発表標題 大学で障害学生支援を行う学生の支援継続要因に関する調査 筑波大学における事例：参加動機と活動への満足度に着目して
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤丈人・森まゆ
2. 発表標題 視覚障害児童生徒・保護者が教育に関して感じている困りごと 当事者への質問紙調査の分析から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森まゆ・中野健介
2. 発表標題 障害者スポーツに肯定的な意識の持てる体験会の開発～大学生を対象としたゴールボール体験会を通して～
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中野泰伺・中島範子・諏訪絵里子・脇貴典・高橋知音・篠田晴男
2. 発表標題 高等教育機関における発達障害学生への合理的配慮の提供事例からみたアセッサーの役割とその養成について
3. 学会等名 日本LD学会第29回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村優紀美・門目紀子・末吉彩香・柘植雅義
2. 発表標題 発達障害のある高校生に向けた大学体験プログラムの意義 - 高校生は何が知りたいのか、大学は何を準備できるのか -
3. 学会等名 日本LD学会第29回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森まゆ
2. 発表標題 見えにくさのある子供の理解と支援
3. 学会等名 岡山県立盲学校公開講座「見えにくさに応じた支援」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹田一則
2. 発表標題 Current status and issues of career support for students with disabilities in Japan (日本の障害学生におけるキャリア支援の現状と課題)
3. 学会等名 2020 International Conference of Career Transitions for College Students with Disabilities (National Taipei University of Education) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田奈々恵・竹田一則・野呂文行・佐々木銀河
2. 発表標題 発達障害学生を想定した仮想事例に関する内容的妥当性の検討
3. 学会等名 日本発達心理学会第32回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大村美保・五味洋一・志賀利一
2. 発表標題 発達障害学生における卒後の社会参加に関する探索的検討
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大村美保・五味洋一
2. 発表標題 大学における重度障害学生の生活支援のあり方を考える
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今村菜・横田晋務・田中真理
2. 発表標題 障害者支援ピアサポーター活動における主体的学びの場の形成について
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川口智也・横田晋務・田中真理
2. 発表標題 合理的配慮の提供における他学生との公平性についての課題 教員へのモニタリングからみえたこと
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松石真理子・横田晋務・田中真理
2. 発表標題 障害のある大学生と障害のない大学生が協働で活動するピア・サポーター活動の課題と特性 サポーター内部で提供され合う援助の様相に着目して
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田島晶子・窪田征隆・内田れい・沖中幸子・田中真理
2. 発表標題 障害のある学生を対象としたインターンシップ体制と課題
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田奈々恵・佐々木銀河・青木真純・中島範子・末吉彩香・中野泰伺・竹田一則
2. 発表標題 発達障害学生を想定した仮想事例動画の制作と活用
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木真純・佐々木銀河・中島範子・岡崎慎治・竹田一則
2. 発表標題 ADHD, ASDのある学生に対する自記式での質問紙による認知特性評価の試み
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木銀河・青木真純・末吉彩香・松田奈々恵・竹田一則
2. 発表標題 発達障害学生支援に関する筑波大学教育関係共同利用拠点の取組
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 末富真弓・佐々木銀河
2. 発表標題 発達障害のある大学生等を対象とした自己理解促進ツールの効果検証
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 末吉彩香・佐々木銀河・中島範子・松田奈々恵・中野泰伺・竹田一則
2. 発表標題 発達障害学生を含む学生グループ活動の取組－障害名の開示 / 非開示による影響の検討－
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島範子・佐々木銀河・竹田一則
2. 発表標題 ATを用いた発達障害学生支援の取り組み事例
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田真理子・中島範子・末富真弓・青木真純・佐々木銀河
2. 発表標題 発達障害学生の修学・キャリア支援と学生の主訴・支援内容に関する実証的研究
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sasaki, G., Sueyoshi, A., Aoki M., Suetomi, M., Nakashima, N., Takeda, K.
2. 発表標題 Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities Project in a Japanese University
3. 学会等名 Association on Higher Education And Disability (AHEAD) 42nd Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志水聡・森まゆ
2. 発表標題 成人の盲知的障害者の点字習得を目指した指導に関する研究
3. 学会等名 第28回視覚障害リハビリテーション研究発表大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 繁田早希・森まゆ
2. 発表標題 視覚障害者に対するジョブコーチによる支援に関する研究
3. 学会等名 日本職業リハビリテーション学会第47回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋知音
2. 発表標題 合理的配慮における根拠資料と配慮内容の妥当性
3. 学会等名 日本発達障害学会第54回研究大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中真理・下中村武
2. 発表標題 発達障害学生支援における学生サポーターの導入 - 学生サポーターの育成と支援実践の観点から -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大野愛哉・上野麻衣・横田晋務・田中真理
2. 発表標題 自閉スペクトラム症者の失言検出に関する研究（1）
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木銀河・松田奈々恵・末吉彩香・高橋桐子・舩越高樹・竹田一則
2. 発表標題 教職員が「わかる」発達障害学生支援の体験型研修と展開
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sasaki, G.
2. 発表標題 Research and practice regarding support for college student in the "Gray Zone" with developmental disabilities
3. 学会等名 2019 Tsukuba Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木銀河・中野泰伺・中島範子・高橋知音・望月直人
2. 発表標題 筑波大学における発達障害の可能性のある学生への支援：発達特性のアセスメントから多層的な修学支援の取り組み
3. 学会等名 日本LD学会第28回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木銀河・中島範子・高橋知音・岡崎慎治・竹田一則
2. 発表標題 大学生・大学院生における発達障害関連支援ニーズの傾向：学生種別・学部・学年間の差異の検討
3. 学会等名 日本LD学会第28回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋知音
2. 発表標題 LDのある大学生への合理的配慮
3. 学会等名 日本LD学会第28回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横田晋務・田中真理
2. 発表標題 大学生における自閉スペクトラム症への態度-社会的望ましさと関連から-
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木銀河・高橋知音・竹田一則
2. 発表標題 大学生における発達障害関連支援ニーズの経時的変化ー学年や相談希望・履歴と支援ニーズの関連ー
3. 学会等名 日本LD学会第27回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木銀河・魏爽・竹田一則
2. 発表標題 大学生等における録音機能付きデジタルペンの有効性
3. 学会等名 日本教育工学会第34回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木銀河・高橋知音・竹田一則
2. 発表標題 大学生における発達障害関連支援ニーズと学業成績の関連
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木銀河・末吉彩香・竹田一則
2. 発表標題 高校生・社会人に対する基礎的環境整備の実証実験－発達障害のある大学生に役立った支援情報配信の有効性の検討－
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横田晋務・田中真里・佐々木銀河・栗田季佳・佐藤剛介
2. 発表標題 発達障害学生支援における学生サポーターの導入：学生サポーター育成と支援実践の観点から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹田一則・佐々木銀河・五味洋一・横田晋務・高橋知音
2. 発表標題 大学における発達障害学生支援の実践・研究の可能性を探る－諸外国の動向を踏まえた日本の大学における展望－
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sasaki, G., Takahashi, T., Takeda, K.
2. 発表標題 The relationship between support needs, grades, and needs for consultation of students with ASD and/or ADHD in Japanese University
3. 学会等名 Association on Higher Education And Disability (AHEAD) 41th annual conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木銀河・末富真弓・杉江征・名川勝
2. 発表標題 発達障害学生の修学・心理・キャリア相談を通じた自己理解促進ツールの開発ー学生自身の得意・苦手の理解と共有を図るWEBアプリケーションー
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 末吉彩香・佐々木銀河・竹田一則
2. 発表標題 小集団エンカレッジグループを通じた発達障害学生における修学上の困り感への支援ー障害名を開示しない状況で障害のない学生を含めたグループ活動の試行的取組ー
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 末富真弓・佐々木銀河・末吉彩香・杉江征・名川勝
2. 発表標題 大学生等における得意・苦手に関する自己理解および伝達に関するニーズ調査
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真名瀬陽平・佐々木銀河・竹田一則
2. 発表標題 合理的配慮提供における教育の本質的変更を考慮した検討フロー作成の試み
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中真理・廣澤満之・井上雅彦・浜田寿美男
2. 発表標題 障害児との関係のなかでひらかれる意味世界の共有の視座とは(2) - 生活文脈の中で自己理解をどのように支えるか -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田島晶子・面高有作・田代正治・窪田征隆・田中真理
2. 発表標題 大学内資源を活用した発達障害学生を対象とした早期からの就職支援体制
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今村菜・田中真理
2. 発表標題 九州大学におけるピア・サポーター育成プログラムに関する取り組み - 発達障害学生へのピアサポートにおける課題 -
3. 学会等名 第67回九州地区大学教育研究協議会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 甲斐更紗・面高有作・横田晋務・田中真理
2. 発表標題 自己評価の観点からみた情報アクセシビリティ支援を担うピア・サポーター学生育成
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川口智也・田中真理
2. 発表標題 学生と教員の合理的配慮に関する建設的対話のあり方
3. 学会等名 第67回九州地区大学教育研究協議会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大野愛哉・田中真理
2. 発表標題 自閉スペクトラム症者の”かわいい”認識 ベビースキーマを見るとき視線に着目して
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 王シン・香田泰子・宮城愛美・森まゆ・竹田一則
2. 発表標題 視覚障害のある留学生の修士論文執筆支援に関する事例研究
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤丈人・森まゆ・竹田一則・小林秀之
2. 発表標題 筑波大学における書籍電子化プロジェクトの現状報告
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮城愛美・小林ゆきの・田中仁・森まゆ
2. 発表標題 視覚障害学生の外国語学習のための環境構築の方法
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 王シン・森まゆ
2. 発表標題 大学キャンパス環境における視覚障害者の歩行支援問題に関する実践研究
3. 学会等名 第27回視覚障害リハビリテーション研究発表大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石原保志・森まゆ・河野純大・宇都野康子・平尾智隆
2. 発表標題 大学等における障害学生のキャリア発達支援 障害学生の意思表示支援を中心に
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 森まゆ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ジアース教育新社	5. 総ページ数 10
3. 書名 第5章弱視児の指導, 青柳まゆみ・鳥山由子編著, 「新・視覚障害教育入門」	

1. 著者名 高橋知音	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 8
3. 書名 「LDの「定義」を再考する」第4章4 LDのある大学生への合理的配慮	

1. 著者名 田中真理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 12
3. 書名 第13章 展望: 特別支援教育を支える心理学研究の今後, 北洋輔・平田正吾編著, 「発達障害の心理学: 特別支援教育を支えるエビデンス」	

1. 著者名 田中真理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 4
3. 書名 コラム自閉症の子どものユーモア研究の現状, 赤木和重編著, 「ユーモアの即興から生まれる表現の創発」	

1. 著者名 田中真理	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 24
3. 書名 第1章共生社会の障害学生支援『共生社会へ 大学における障害学生支援を考える』(吉武清實、岡田有司、榊原佐和子 編 / 高等教育ライブラリ16)	

1. 著者名 佐々木銀河	4. 発行年 2019年
2. 出版社 IDE大学協会	5. 総ページ数 5
3. 書名 IDE現代の高等教育 発達障害とダイバーシティ	

1. 著者名 竹田一則(編著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ジアース教育新社	5. 総ページ数 273
3. 書名 よくわかる! 大学における障害学生支援	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 知音 (TAKAHASHI Tomone) (20291388)	信州大学・学術研究院教育学系・教授 (13601)	
研究分担者	佐藤 克敏 (SATO Katutosi) (20310360)	京都教育大学・教育学部・教授 (14302)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森 まゆ (MORI Mayu) (20634893)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・講師 (15401)	
研究分担者	野呂 文行 (NORO Fumiyuki) (30272149)	筑波大学・人間系・教授 (12102)	
研究分担者	岡崎 慎治 (OKAZAKI Shinji) (40334023)	筑波大学・人間系・准教授 (12102)	
研究分担者	宮内 久絵 (MIYAUCHI Hisae) (40530986)	筑波大学・人間系・准教授 (12102)	
研究分担者	米田 宏樹 (YONEDA Hiroki) (50292462)	筑波大学・人間系・准教授 (12102)	
研究分担者	大村 美保 (OMURA Miho) (60641991)	筑波大学・人間系・助教 (12102)	
研究分担者	後藤 由紀子 (GOTO Yukiko) (60848878)	筑波技術大学・産業技術学部・特任助手 (12103)	
研究分担者	脇 貴典 (WAKI Takanori) (60865799)	筑波大学・ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター・助教 (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中野 泰司 (NAKANO Yasushi) (60869254)	筑波大学・人間系・研究員 (12102)	
研究分担者	田中 真理 (TANAKA Mari) (70274412)	九州大学・基幹教育院・教授 (17102)	
研究分担者	横田 晋務 (YOKOTA Susumu) (70734797)	九州大学・基幹教育院・准教授 (17102)	
研究分担者	五味 洋一 (GOMI Yoichi) (80642131)	群馬大学・大学教育・学生支援機構・准教授 (12301)	
研究分担者	佐々木 銀河 (SASAKI Ginga) (80768945)	筑波大学・人間系・准教授 (12102)	
研究分担者	藤原 あや (FUJIWARA Aya) (10882417)	筑波大学・人間系・助教 (12102)	
研究分担者	中島 範子 (NAKASHIMA Noriko) (10555080)	筑波大学・人間系・研究員 (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------